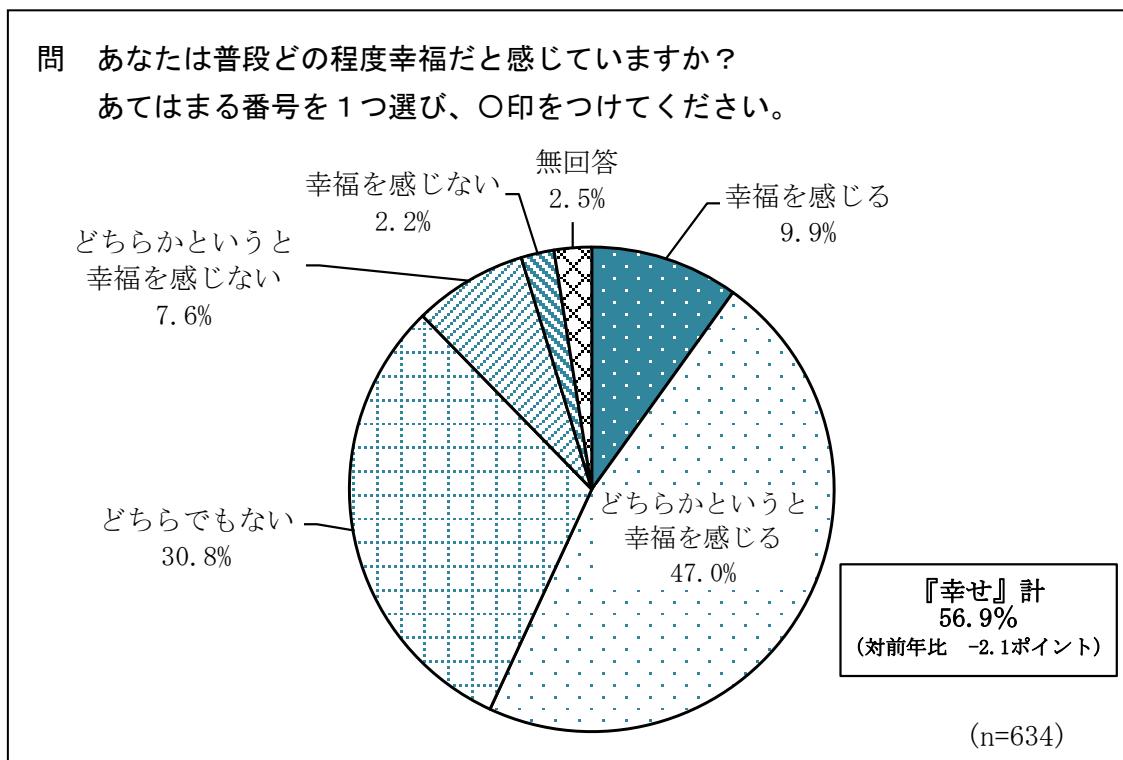


1. 幸福度の現状について

(1) 幸福度



6割弱の市民は幸せと感じています

【全体結果】

「幸福を感じる（とても幸せ）」(9.9%)と「どちらかという和幸福を感じる（どちらかという和幸福を感じる）」(47.0%)の両者を合計すると『幸せ』(56.9%)となっています。

一方、「どちらかという和幸福を感じない（どちらかという和幸福を感じない）」(7.6%)と「幸福を感じない（不幸せ）」(2.2%)を合計すると『不幸せ』(9.8%)となっています。

【属性別結果】(図 1-1 参照)

① 性別

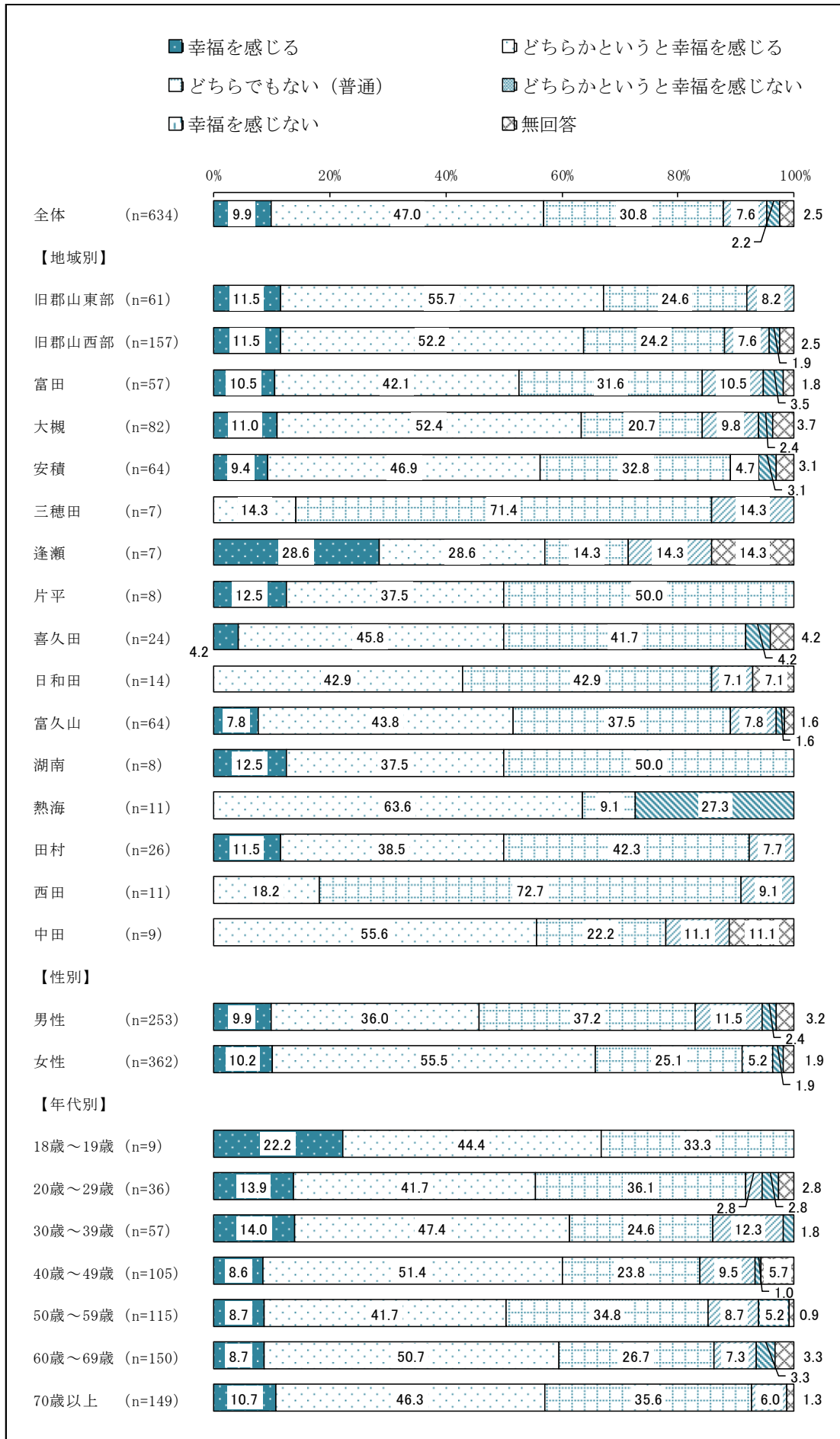
『幸せ』の割合は、女性(65.7%)の方が男性(45.9%)よりも高くなっています。

② 年代別

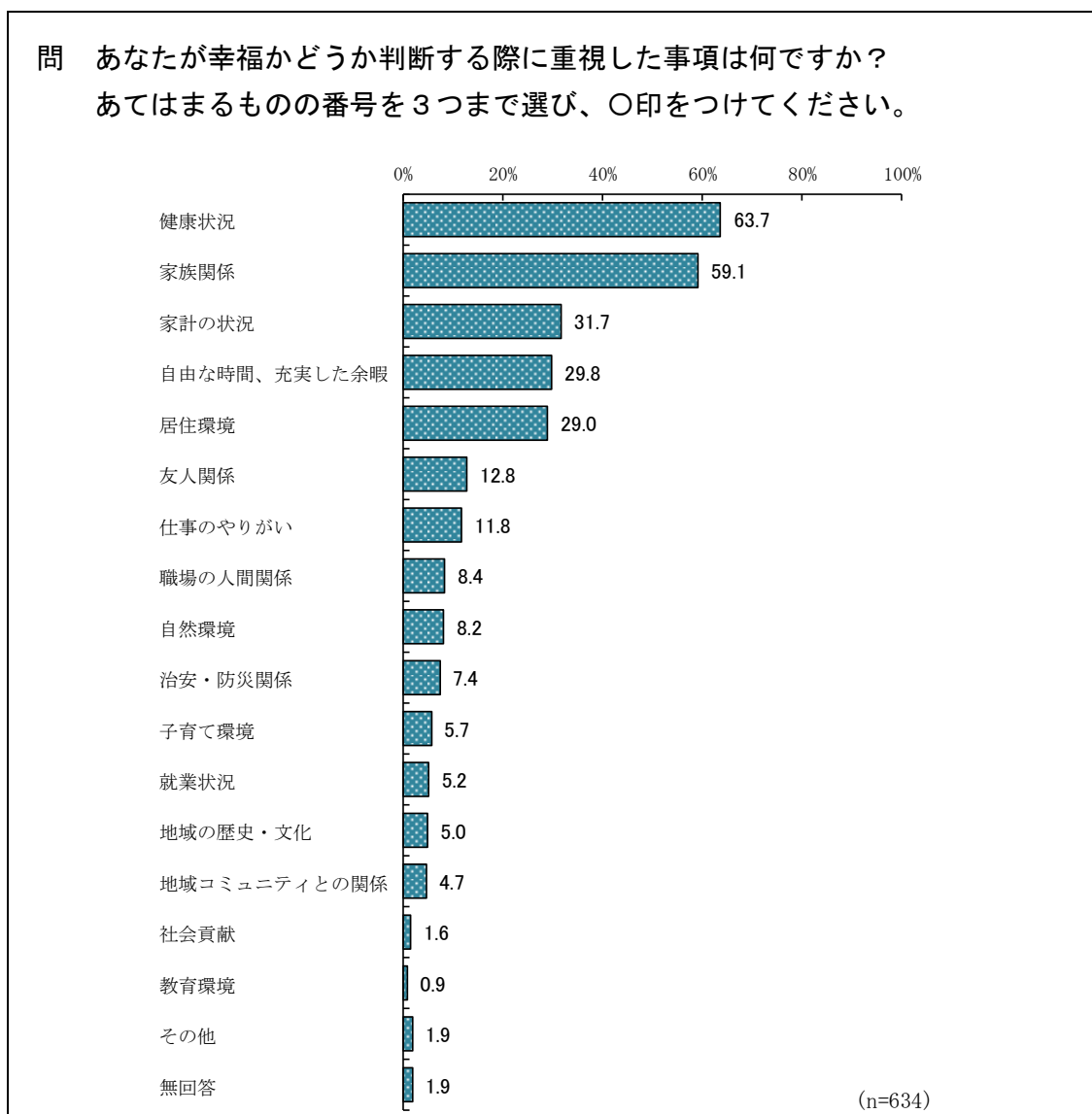
『幸せ』の割合は、30代(61.4%)で最も高くなっています。

なお、10代については回答数が少ないため、参考として数値のみ掲載します(以降同様)。

図 1 - 1 幸福度（地域別／性別／年代別）



(2) 幸福度の判断の際に重視した事項（複数回答）



幸福度の判断には「健康状況」、「家族関係」を重視

【全体結果】

幸福かどうか判断する際には「健康状況」（63.7%）、「家族関係」（59.1%）が特に重視されており、以下、「家計の状況」（31.7%）、「自由な時間、充実した余暇」（29.8%）、「居住環境」（29.0%）の順に続いています。

【属性別結果】（図 1-2 参照）

① 性別

男性では、「健康状況」（61.3%）が「家族関係」（51.4%）を上回っているのに対して、女性では「健康状況」と「家族関係」が同じ割合（64.6%）となっています。

② 年代別

高齢層では「健康状況」、30～50代では「家族関係」、10～20代では「自由な時間、充実した余暇」の割合が高く、年代によって分かれる傾向があります。

図1-2 幸福度の判断の際に重視した事項～1/6～（地域別／性別／年代別）

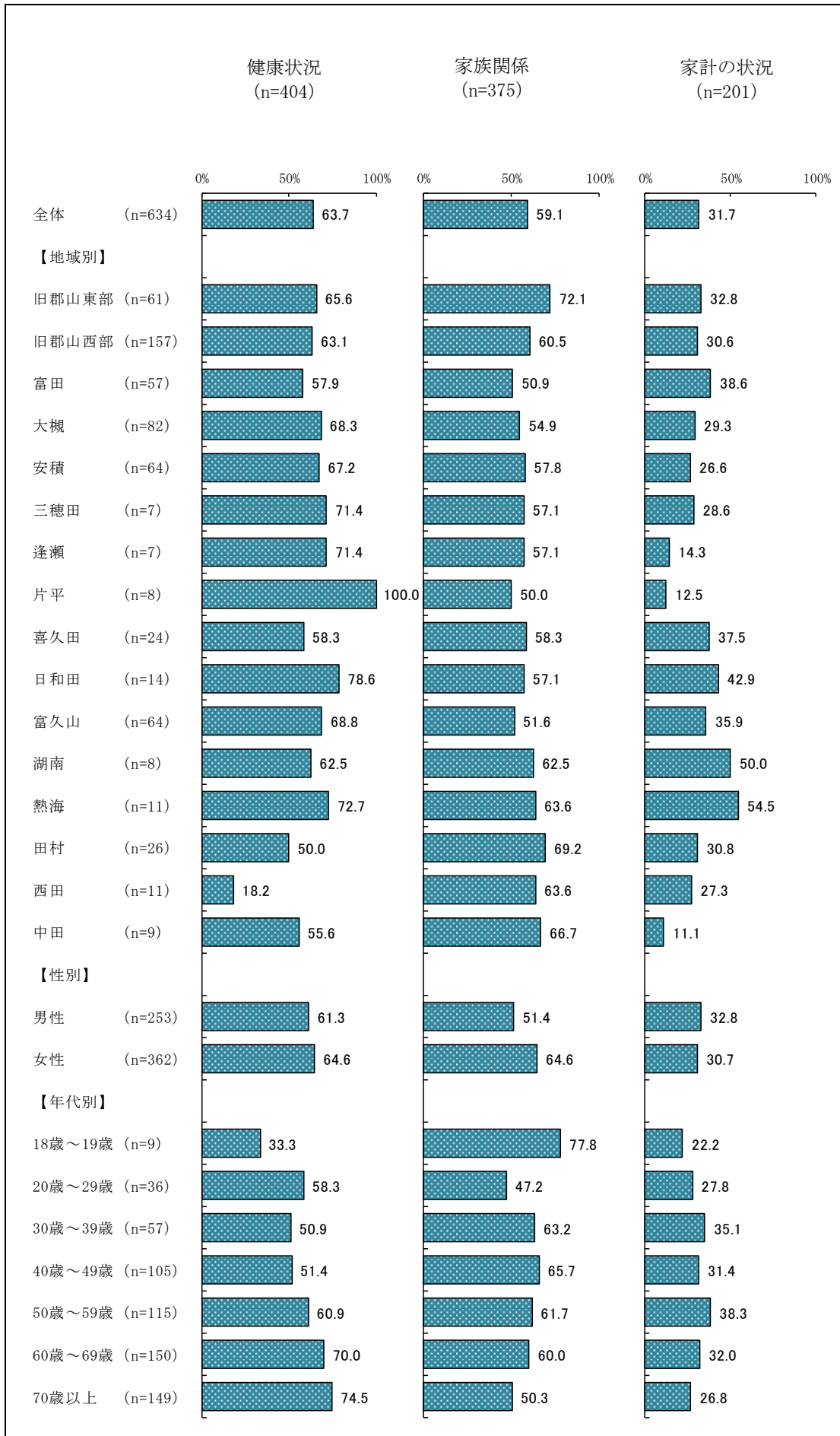


図1-2 幸福度の判断の際に重視した事項～2/6～（地域別／性別／年代別）

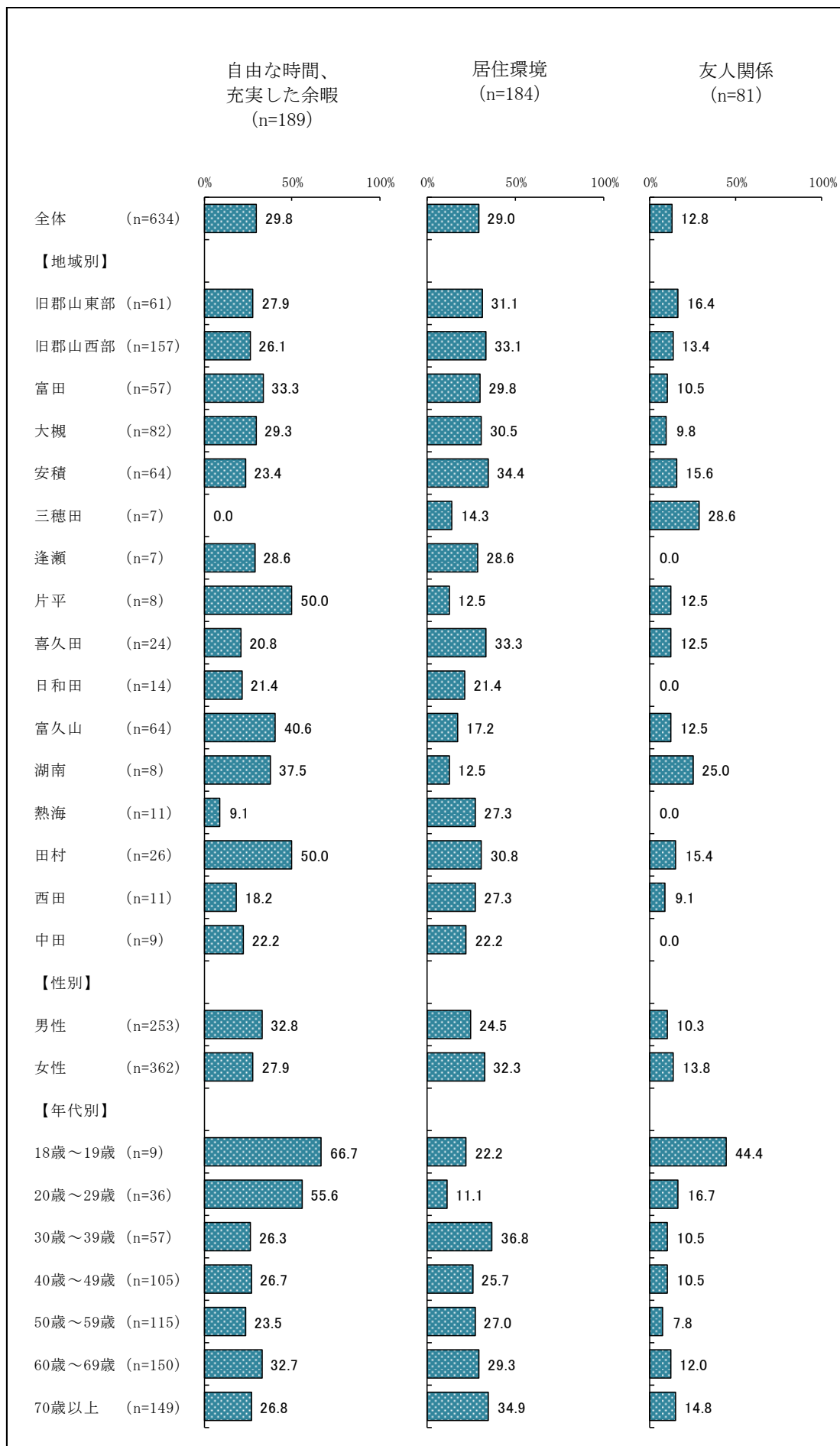


図 1 - 2 幸福度の判断の際に重視した事項～3/6～（地域別／性別／年代別）

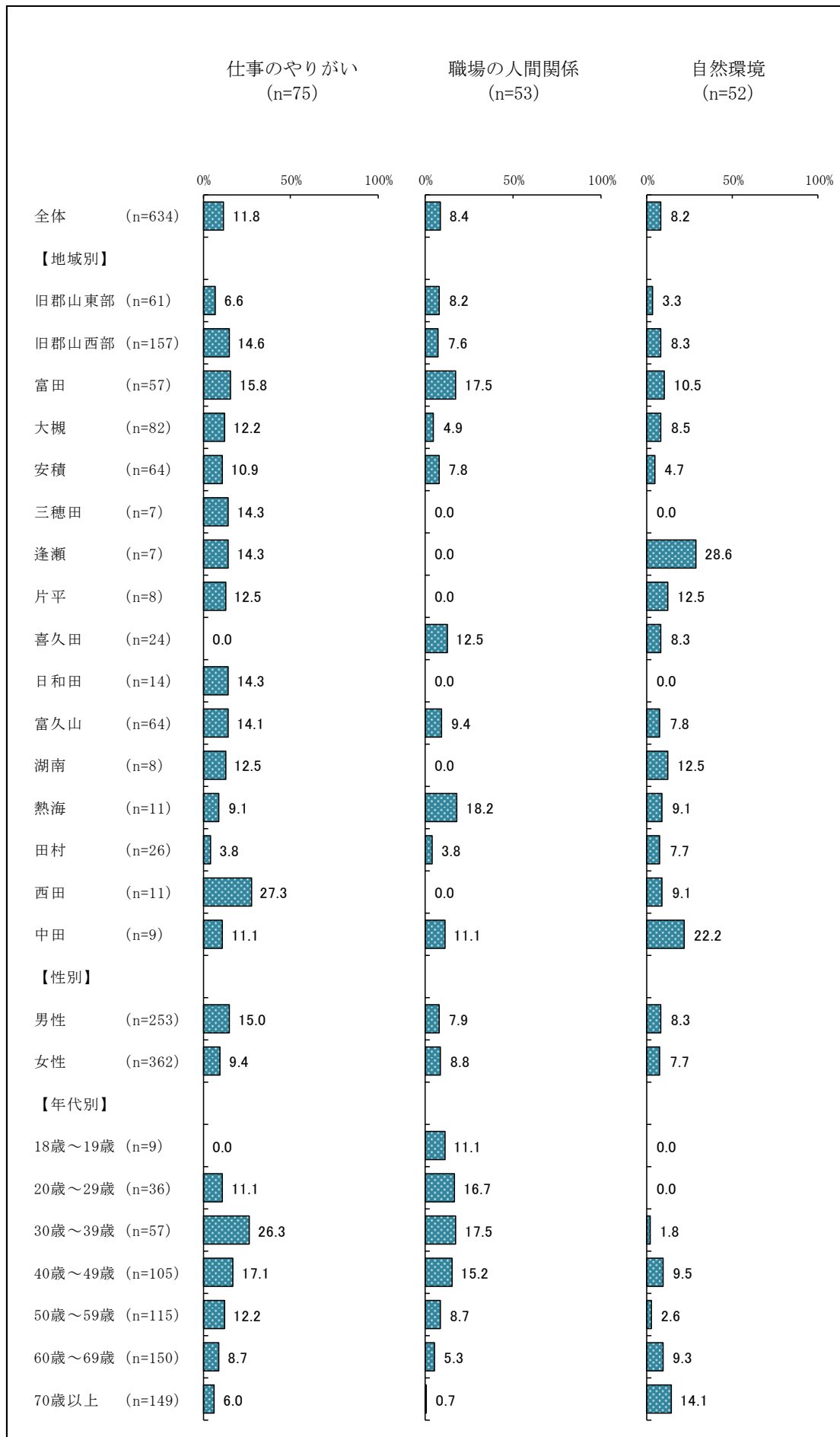


図1-2 幸福度の判断の際に重視した事項～4/6～（地域別／性別／年代別）

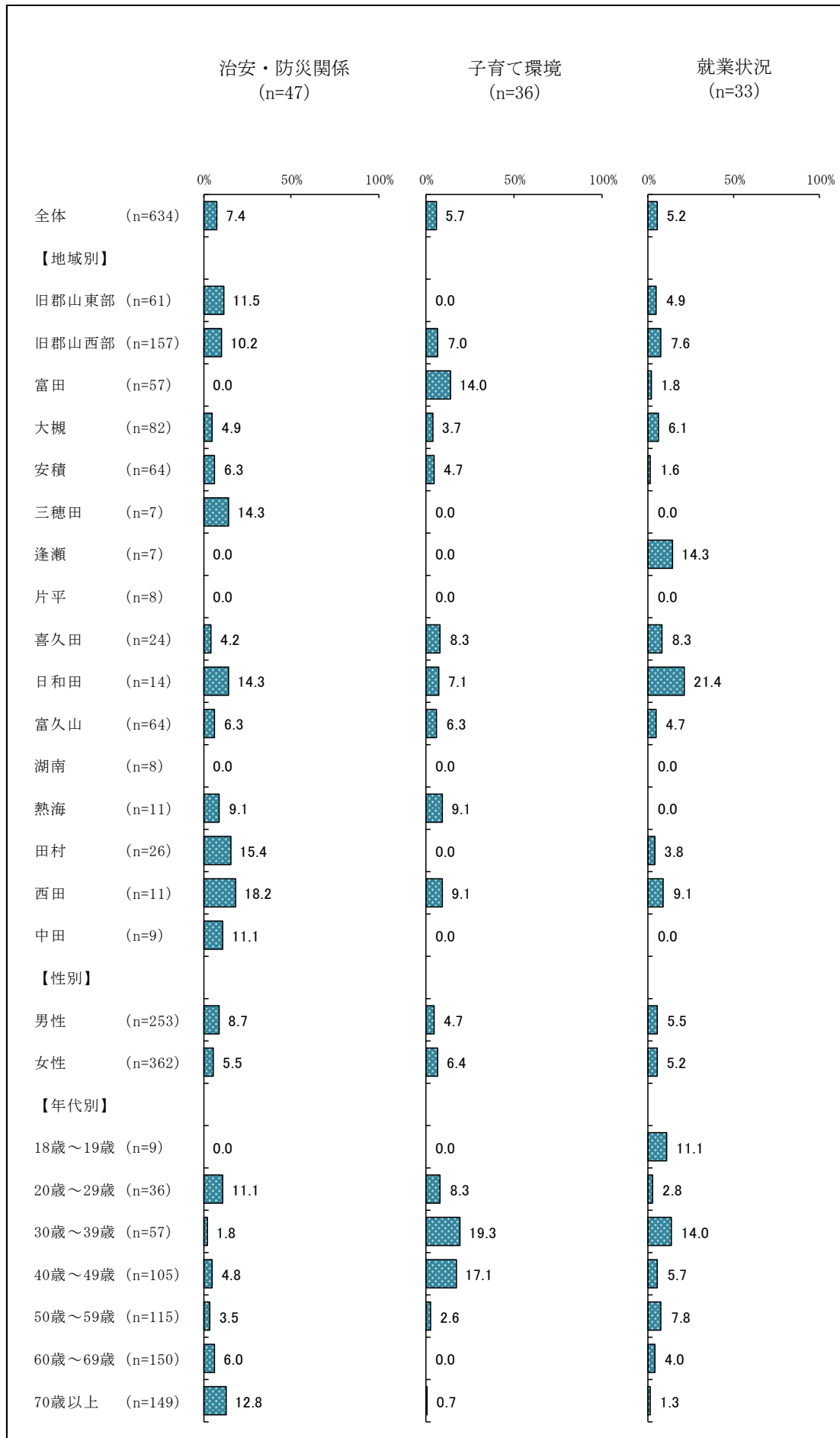


図 1-2 幸福度の判断の際に重視した事項～5/6～（地域別／性別／年代別）

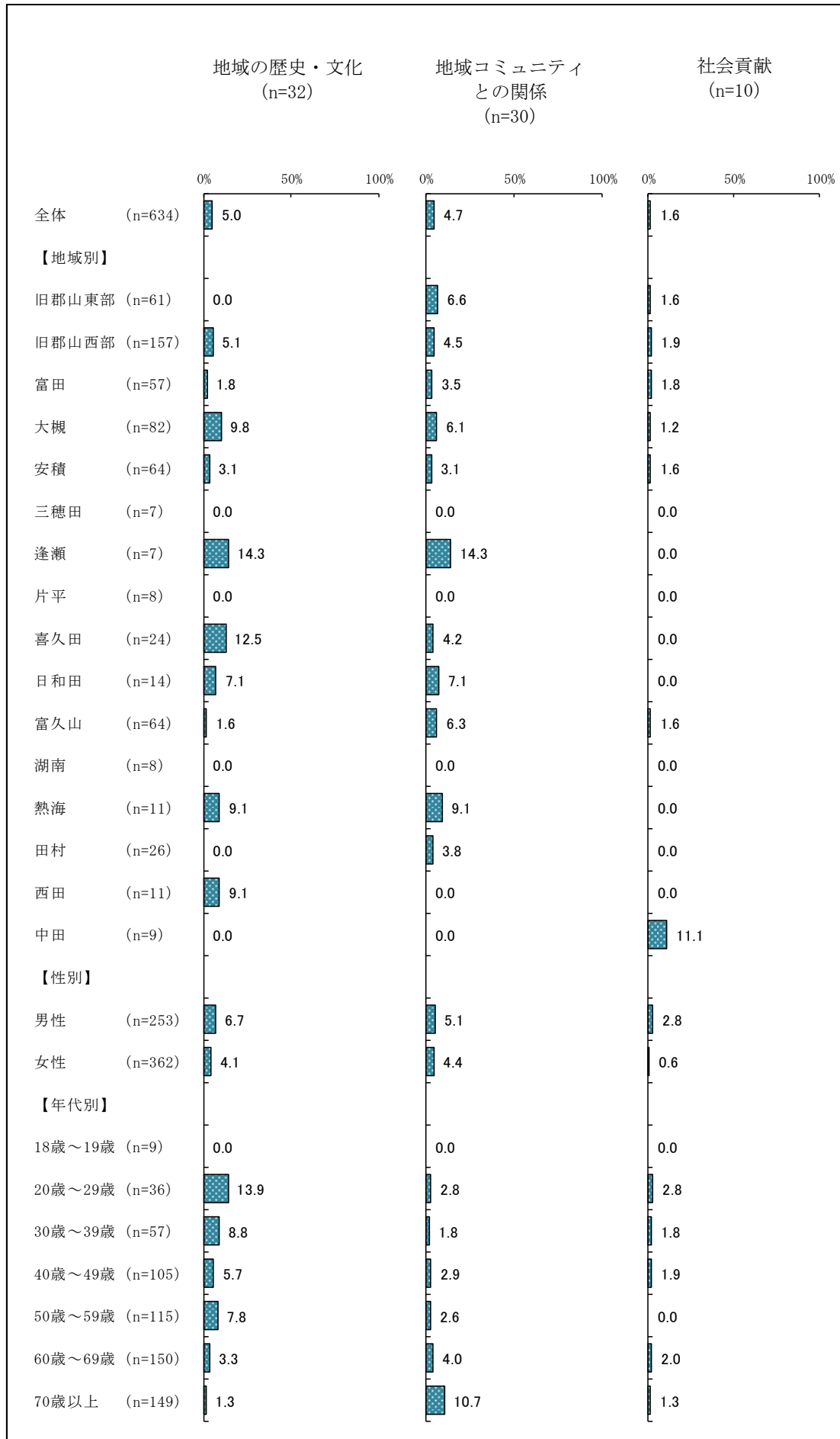


図 1 - 2 幸福度の判断の際に重視した事項～6/6～（地域別／性別／年代別）

